

小学校高学年の学級力向上に関する実践研究

令和3年度入学

熊本大学大学院 教育学研究科

教職実践開発専攻 学校教育実践高度化コース

木原 理沙

実践報告書要旨

今日、学校現場においては「学級経営」の在り方・充実に変化が求められ、より重要視されているが、他の研究分野に比べて定義が曖昧であったり学術研究が乏しかったりする。また学校という社会的な場でこそ、児童同士、児童・教員間の人間関係・信頼関係は極めて重要であるが、これらの関係性を保ちつつ1年間の見通しを持って学級経営を行うことは経験の少ない若手教員にとって困難であると考え、そこで大学院生という立場で学級経営に対する知識や理論を学び、実践を行った。そして本実践は学級で何かあれば必ず立ち返る学級目標を軸にし、児童と学級担任が共に学級を作り上げ集団としての学級力を向上させていけるような取り組みであり、それらを行うことは今後の教員人生において非常に有意義であると考え、本研究に取り組み、当該の題目を設定した。

第1章では、今日の学級経営の課題と本研究の関連付け、今回の研究対象である小学校高学年における学級づくりの実態などについて述べる。また本研究は、田中(2013)の実践を参考にし、本研究での実践が資質・能力を育む学級力の向上に繋がること、併せてその実践が学級担任や児童、学級づくりにどのように影響するのかを明らかにする。更にPDCAサイクルに沿って作成した年間スケジュールをもとに、見通しを持ちながら1年間の学級経営を行うことが可能であることを明らかにする。

第2章では、まず学級経営観の理解を示すにあたり、研究対象学級の学級担任と学級経営方針の共有を行い、先行研究や文献に示された学級経営の定義等を理論的側面から述べる。それらを踏まえ各目標を関連付け、系統性を見出し、本研究の実践で活用した学級目標を軸としたオリジナルの学級力アンケートの作成過程を示す。

第3章では、学級力向上に向けての具体的な取り組みについて述べる。本研究では研究対象校の年間行事と関連付けしPDCAサイクルに沿って作成した年間スケジュールをもとに、1年間の児童や学級の動き・変容を「子どもの成長段階」とし、第1ステージから第3ステージまで段階的に見取る。よってそれらをもとに実施した学級力アンケートやその結果の振り返り活動等の内容を示す。

第4章では、学級担任との連携・協働や筆者自身が学んだことを踏まえ、本研究の成果について総合的に考察する。また1年間を通して見えた大学院生による小学校高学年の学級づくりの意義や本研究を通して明らかになった発達段階に合わせた実践の重要性等の課題についても述べる。